

2025年8月24日 聖霊降臨後第11主日 「束縛から解く」

イザヤ 58:9b~14 ヘブライ 12:18~29 ルカ 13:10~17

本日の第1日課のはじめの言葉を思い返しましょう。

軛を負わすこと、

指をさすこと

呪いの言葉をはくこと

これら三つを合わせた物を、今の言葉で言い表すなら「差別」です。

「軛」は家畜たちが、逃げださず働くために、並べられて首を差し込む、固い木の枠です。軛を掛けると、自由に動くことは出来ず、視界も遮られます。そして重荷を牽いて進む事を強いられます。

「指を指す」のは決めつける事です。正しい名前を奪い、個性を認めず、一方的に決めた枠組みの一員として、番号で数え上げられます。

「呪いの言葉をはく」ことは、相手の存在を否定して、否定的な運命を一方的に押しつけることです。「呪いの言葉をはく」という部分を、新しい協会共同訳では「悪事を語る」と翻訳します。

この個所につけられた表題は、新共同訳聖書では「神に従う道」です。しかし先程の新しい協会共同訳聖書では「主が選ぶ断食」となっています。これは、
<私が選ぶ断食とは

不正の束縛をほどき、軛の横木の縄を解いて

虐げられた人を自由の身にし

軛の横木をことごとく折ることではないのか。>イザヤ書 58 章 6 節

から取られています。さらにイザヤ書 58 章 7 節は

<飢えた人にパンを分け与え

家がなく苦しむ人々を家に招くこと

裸の人を見れば服を着せ

自分の肉親を助けることではないのか。>

と続きます。「自分の肉親」は新共同訳では同胞と翻訳されています。

神に従う道はこのように、苦しみの中に喘ぐ人たちに、直接に関わっていく

事にあると、預言者イザヤは聞きました。

<喉をからして叫べ、抑えてはならない。

角笛のように、あなたの声を上げよ。

私の民に、その背きの罪を

ヤコブの家に、その罪を告げよ。>イザヤ書 58 章 1 節

沈黙して祈るだけでなく声をあげて、虐げられた人たちのそばに身を運んで、

彼らを捉えている固い軛から解き放ち、自由を取り戻して、人間としての尊厳を

回復する働きを、イエスさまの弟子である、私たちは行わなければなりません。

<安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。そこに、十八年間も病の靈に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。>ルカ 13:10-11

<神は第七の日を祝福し、これを聖別された。その日、神はすべての創造の業を終えて休まれたからである。>創世記 2 章 3 節

この事によってユダヤ人は今も、第七の日である土曜日を、神さまに感謝して、安息日と定めて一切、働く事をしません。

「安息日に会堂で聖書の言葉を教える事は許されるのに、安息日にその力によって人の苦しみを取り除くのはいけない。」

会堂長の主張は、明らかに本質から外れています。彼が腹を立てたのは、律法を守る、会堂長という立場からだけではありません。十八年間も病の靈に取り憑かれていた人が、イエスさまによって癒された事実に、激しく嫉妬したのです。

「軛を負わすこと、指をさすこと、呪いの言葉をはくこと」預言者イザヤに、神さまが語られたこれらの罪を、私たちは遥か昔から今に至るまでの間、ずっとくり返し続けています。苦しみの中にいる人に、口先では同情していながらも、実際に手を差し伸べる事無く、「それはあなたの自己責任」という、無慈悲な心で切り捨てています。これは本当に恥ずべきことです。

不幸な人はより不幸な人を見て、「嫌だ。まだ自分はいくらでも良かった」

この悪魔の囁きに捕らえられ、差別主義者に転落します。この束の間の優位には必ず、大きな逆転が訪れます。これは歴史が証しする、誠に確かな真実です。

<主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞こえないのでもない。むしろお前たちの悪が／神とお前たちとの間を隔て／お前たちの罪が神の御顔を隠させ／お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。>イザヤ.59:1-2

預言者イザヤに神さまはこのように告げられます。

<起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い／暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で／主の栄光があなたの上に現れる。>イザヤ.60:1-2

私たち自身が作っている隔ての壁が、神さまの愛を遠ざけて、主の平和の妨げとなっています。いま日本文学研究者のロバートキャンベル氏が、激しい空爆を受けているウクライナの前線に近い町ハルキウに滞在しています。その暮らしを彼は「天から蜜蜂の大群のようにドローンが降って来る」と表現しました。

<主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。>61:1

主がなさった数々のすばらしい愛の行いに励まされて、私たちもすぐに行って、隣人に仕えましょう。その為に先ず自らの偏見という、重い軛を捨てましょう。